

平成 28 年 7 月 5 日(火)

読売新聞に医療支援(パラオ)の

記事が掲載されました

(第3種郵便物認可)

2016年(平成28年)7月5日(火曜日)

パラオで眼科医療支援



パラオで医療支援を行う小沢理事長とビジョンバン

来月9日間

水戸のNPO 白内障患者100人手術へ

水戸市のNPO法人「南太平洋眼科医療協力会」が8月、パラオで眼科の医療支援を行う。自衛隊が米軍と世界各地で医療活動などを行う「パシフィック・パートナーシップ」の一環として、自衛隊が参加機関を公募し選ばれた。活動期間中は白内障の患者100人以上を手術する予定だ。

同会は小沢眼科内科病院(水戸市)が2011年に設立、主に海外で眼科医療のボランティア活動をしている。昨年は太平洋の島国・キリバスで医療支援を行った。

今回の活動には、同会から小沢忠彦理事長を始め、眼科医や看護師ら計7人が参加する。パラオは紫外線が強く白内障など、目の病気になる人が多いという。一方、専門医はほとん

どおらず、医療体制は十分に整備されていない。

現地では、8月5〜13日の9日間にわたって活動する。パラオ沖に停泊した海上自衛隊の輸送艦「しもきた」の手術室で、小沢理事長が執刀するという。日本眼科医会が所有する目の治療ができる最新装備が整った車「ビジョンバン」も輸送し、現地で住民の外来診察を受け付ける。その際、県内外から集めた約2500本の眼鏡の中からそれぞれの視力に合ったものを無償提供する。

小沢理事長は「現地では全く目が見えない状態になった人もいます。日本の代表として手術に臨み、現地の人たちに大きな喜びを与えてきたい」と話した。